

# 受療者医療保険学術連合会設立総会

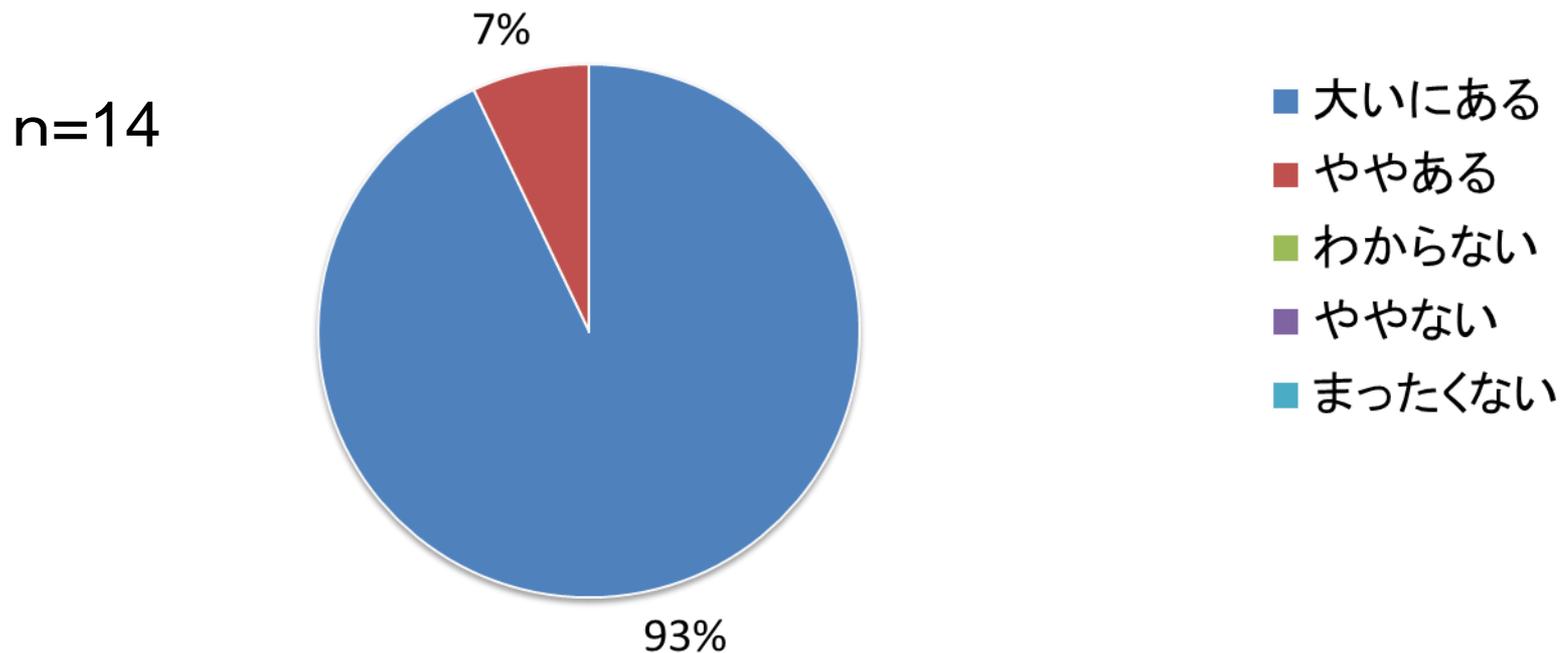
## 事前アンケート調査結果

(2012.09.01)

- アンケート対象：受保連加盟患者団体 23団体
- 実施期間：2012年8月20日～28日
- 回答：14団体
- 回答率：60%

本アンケートの目的：会の骨子の確認と医療経済や医療保険に対する関心を事前に伺い議論をより実りあるものにするため

# 医療保険や医療経済に対する関心

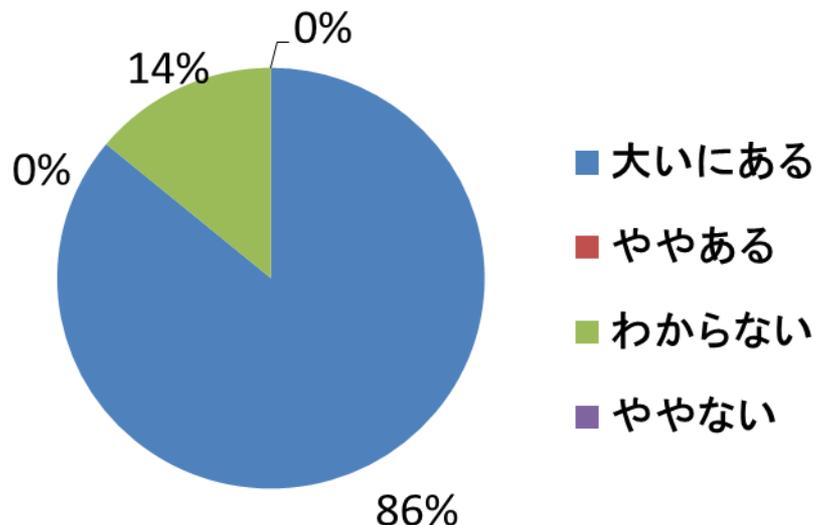


## 医療保険や医療経済に対する関心：

回答を頂いた、9割が「医療保険や医療経済について」大きな関心を寄せていることがわかりました。

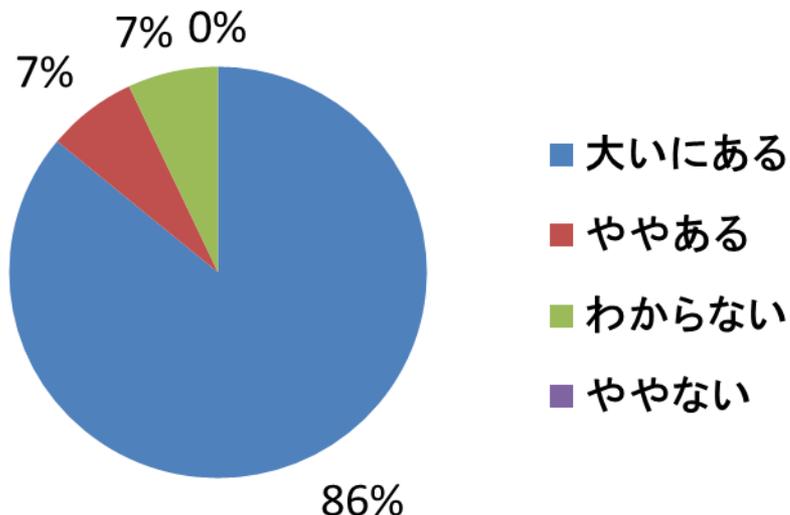
## 受療者と医療者が協同 する必要性

n=14



## 医療価値を「見える化」する 意義

n=14



### 受療者と医療者の協同議論の必要性:

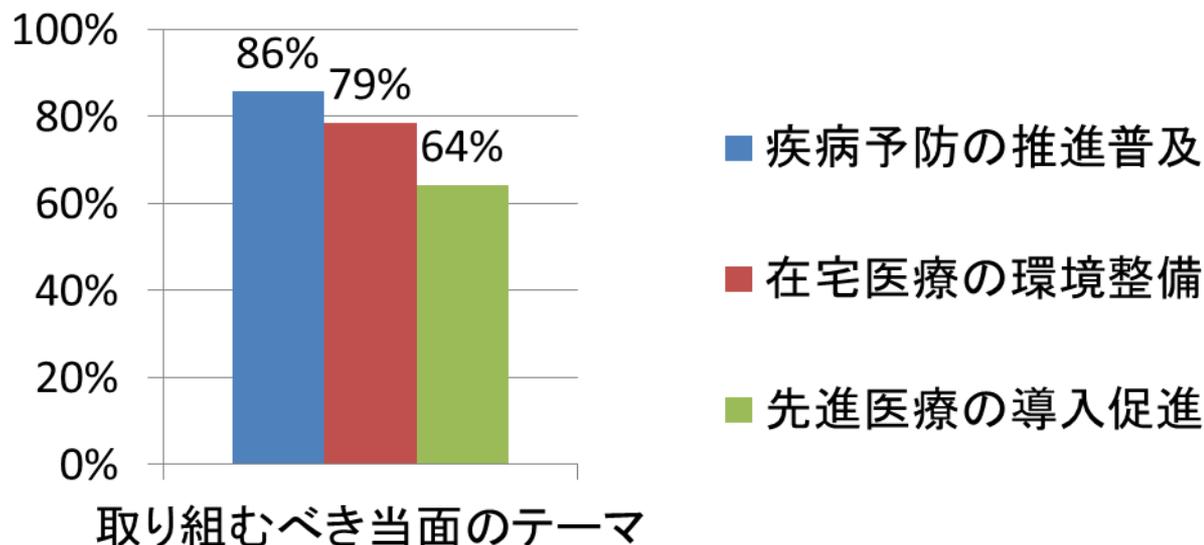
ほとんどの団体が我が国の医療システム発展のため受療者と医療者合同で議論を進めることがとても大切だと感じています。

### 医療価値を「見える化」する意義:

適切な診療選択と治療サービスの受療のため「医療価値」を明文化し、医療資源の有効活用と財源を確保することにも、大多数の団体が高い意義を見出しています。

## 受保連が取り組むべき当面のテーマ

n=14 複数回答



自由回答:

「終末医療」「医療と介護の連携」といった今後避けて通れない医療価値や医療経済そして環境づくりについての議論の必要性。

また「診療報酬の適正化」や「患者への経済的支援策」「デバイスラグの問題解決への行政への働きかけ」など取り組むべきテーマが多岐に亘っています。